

共に学ぶ

学校支援ボランティアセンター (SSVC)

第31号 (年2回発行)

狭山市学校支援ボランティアセンター
＜事務所＞

狭山市狭山台1-21

狭山元気プラザ内A棟3F

☎/Fax 04-2927-1395

E-mail: sayama-ssvc@bd.wakwak.com

電話受付: 月・水・金曜日午後1時～4時迄

With コロナのその先へ... 狭山市教育委員会 狭山市立教育センター所長 今福 雅之

SSVCの皆様におかれましては、各小中学校への支援活動等を通じて長年多大なご貢献をいただいていることに敬意を表すとともに心より感謝を申し上げます。

皆様とは、私の狭山台中学校勤務時代、南棟の一角に事務局が設置された頃からのお付き合いになります。当時は、私の英語の授業でも生徒とペアになって英語を話していただいたり、英会話のグループワークで生徒の中に入れていただいたり、時には、経験豊富な皆様の得意分野についてお話しいただいたり…。毎時間の小テストの丸つけを「やらせてください」と申し出てくださったときは、忙しく走り回っていた私には、そのお言葉がまるで天からの贈り物のように聞こえてきたのを覚えています。実験の準備が大変な理科や、個別の支援の手が欲しい算数・数学などなど、きっと他の先生方も感謝の気持ちでいっぱいだったのではないのでしょうか。以来、児童生徒のために、

日々、様々な場面で皆様のお力添えをいただいているところとなっております。

そんな皆様の活動も、新型コロナウイルス感染症の拡大により縮小を余儀なくされ、また、学校としても

とても歯がゆい思いをしまっていました。しかし、今や児童生徒のWithコロナの生活も当たり前のことになり、狭山市GIGAスクール構想の実現のために導入された1人1台端末を活用した、今までとは違う授業形態もよく見られるようになりました。Withコロナのその先へ思いを巡らし、「生きる力を備え 未来へはばたく さやまっ子」の育成に、これからも皆様と共に学び、共に歩んで参りたいと思います。次世代を担う児童生徒たちの健やかな成長のために、引き続きご協力をお願いいたします。



コミュニティスクール化に向けて

SSVC 事務局長 山田 恵一

狭山市でもコミュニティスクール化に向けて学校運営協議会が設置され「With コロナ」の活動の仕方を工夫することで、これからは地域と連携した具体的な活動が始まると思われま。

また、縁あって全国公立小中学校事務職員研究会(全事研)の全国大会に参画させて頂き、事務職員の皆さんが学校運営協議会の活動に積極的に関わることで、子どもたちにより良い教育の場を提供しようと考えられていることを知りました。

それぞれの地域の特性に合わせた学校との協働活動ということですから、活動内容は学校毎に異なったも

のようになりますが、学区内に住んでいる方だけでは対応できないことがいろいろと発生すると予想されます。

SSVCは、幅広い方々に登録して頂いて狭山市内全域を対象として活動して来ましたが、登録している方だけでは対応できない専門的な技量が必要な支援を行うために、公民館で活動している団体に協力して頂くことなども経験していますので、地域の人材を補完する働きが可能だと思います。

学校運営協議会の委員にはSSVCのコーディネーターの方が多数就任しておられますので、積極的に地域の活動に関わって行きたいと考えています。

どうしてセンター組織（SSVC）が必要だったか② 前 SSVC センター長 諸井 寿夫

～～今までを振り返り、エピソードや今後の展望などシリーズで掲載中～～

前30号に掲載の通り、某中学校を皮切りに始まった学校支援活動も他小中学校でも少しずつ、その気配が高まって、市内小学校5校、中学校6校に拡大してきました。しかしながら、ここまでは、何とか各人のひたむきな努力で運営してきましたが、各学校が個々独自に始めることは、効果、効率面などで問題を残すだろうと。

そこで、課題、対応策、支援事例などの情報共有、標準化することが必要であると考えました。つまり、この増大する支援要請に対応するには、個人の限界を超えて過重な負担となっていました。膨大な連絡、通信事務、調整作業、事務処理など、これらの活動を停滞させることなく、円滑に運営するために当然のことながら組織やシステム化が不可欠であります。この視点から、全般支援の拠点として「学校支援センター」を開設し、より充実した取り組みを進めることが必要であることの検討を重ねました。そしてこの施策案を行政と何回も協議し、行政事業としてその受託を受ける方向に進展、その行政の推進者である社会教育課の当時K主幹と我々のミッションが一致して、こ

の企画が進展したのも恵まれた出会いがあったからだと改めて感謝です。

尚、この活動に対するご

理解と拠点となるスペースを提供いただけるよう直接、教育長にお願いしたことも一つのハードルだったと思っています。

その結果、狭山台中学校南棟2階の空教室を借用することになり、作業机、電話、PC、プリンターなどの事務用品などの設置、そして、人材の募集作業、情報の集約化などの規定ルール作りを先行しました。

そして、広報活動の一つでもあります。関係者30名程にお集まりいただき「開設キックオフミーティング」を開催して方向性の確認、ご協力を頂く。また全校長会にて時間をもらい趣旨説明、ご支援を頂き狭山市内全校に向けての新たな展開が始まりました。

(次号予定 全国的にもまだ珍しいSSVCの存在が注目を集める ③)



(2007.6.25 SSVC 開設キックオフ)

第53回全国公立小中学校事務研究大会（埼玉大会）に参加しました

SSVC 事務局長 山田 恵一

全国の公立小中学校の事務職員の皆さんが参加される研究大会が昨年度は埼玉支部の担当で開催されました。今回の大会テーマは「子どもの未来を創造する地域協働」で、埼玉支部が提案した「未来を創る子どもたちのために事務職員が果たす役割」の中で、地域で活動する人の気持ちをSSVCがインタビューを受け

る形で報告し、1月14日（金）から2月18日（金）までインターネット上で放映されました。

また、1月27日（木）にオンラインで開催された研究討議に、山田事務局長が助言者として参加しました。

狭山市でも学校運営協議会の活動が進み始めています。日頃から学校に向いた折には何かとお世話になっている事務職員

本日の討議の流れ

討議の柱1

地域とともにある学校づくりに
おける事務職員の役割

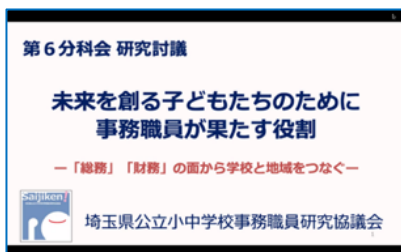
討議の柱2

必要な力量と研修制度

終了時間は12時を予定しています

1月27日（木）研究討議

の皆さんとの相互理解が進むことで、より良い学校支援が行えるようになることを期待しています。



インタビューに答える藤森さんと高嶋さん

校長先生 こんにちは 30

「エイホー エイホー 輪になれ！」

昭和50年に開校した新狭山小学校は、今年で48年目を迎えます。現在の児童数は、437名、全15学級で、学区内には、新狭山駅があり、バラエティ豊かに駅前の商業地、工業地、そして農地、住宅地を含んでいます。地域や保護者の皆様には毎日、登下校の見守りや様々なボランティア活動で学校を支えていただいております。日々、感謝しております。

本校の学校教育目標は、「明るく」元気よく遊び、あいさつのできる子 「かしこく」進んで考え、学習する子 「仲よく」人の心の痛みが分かる優しい子 です。知・徳・体バランスよく、健やかに成長してほしいと願い、全職員が「チーム新狭山」を合言葉に、教育活動に当たっております。本校の目指す学校像は、「子供が安心して学び、笑顔あふれ、誇りと夢をもてる学校」としてあります。コロナ禍も3年目に入り、コロナ等感染症の恐怖から子供を守り、子供が安心して学べる学校でありたいと考えております。その中

新狭山小学校 校長 瀬戸口 秀之

で、子供たちが生き生きと学び、様々な体験をとおして笑顔あふれ、そして誇りと夢を持つことができる学校を目指しています。表題の「エイホー エイホー 輪になれ！」は、本校の校歌の一節です。コロナが明けた暁には、子供たちと共に、ノーマスクで元気いっぱい、学校中に響き渡る歌声で校歌を大合唱したいと思っております。



最後になりますが、コロナ禍になりSSVCの皆様の支援をいただけない日が長期化しております。一日も早く、以前のような支援がいただけるようになることを願っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

「ボランティア学習研究第22号」に掲載された記事の紹介

前事務局長 猪股 英行

SSVCの活動を、狭山市内に止まらずもっと広く知ってもらうには？と考えていたところ、「日本ボランティア学習協会」という学会があり、研究紀要として「ボランティア学習研究」が毎年刊行されていることを知りました。直ちに会員となって以来、SSVCとして実践してきた3件の事例報告が採択されています。ここでは、4件目となる「新型コロナウイルス禍中の学校支援～埼玉県狭山市において～」について紹介します。

SSVCは2007年に発足以来、市内の公立小中学校（全23校）における学校支援に毎年約9000時間、300名を越す支援員が携わり、実績を挙げてきました。それが、2020年当初にウイルス禍のまん延が始まり、拡大防止のために教育委員会から、「ボランティアによる学校支援は控えるように」との指示が出され、いつ再

開できるか不明という苦境に追い込まれました。

従来の学習支援は、授業中の教室に支援員が入り、先生の話に乗っていない子どもがいれば、その脇に立って補足説明をしたり・ヒントを囁くといった対面式が主でした。この形では、双方に感染の恐れが生じるので実施は無理です。他方、子供たちが毎朝提出する宿題などの〇付けや確認を別室で行えば、子供たちと接触しない支援が可能になります。また、先生方が行使し得る貴重な時間の一部を肩代わりできます。

学校支援事業の委託元である社会教育課、学校教育の元締めである教育指導課の賛同を得て、一部の学校では直ちに、先生方と支援員で実施方法に関する詳細打合せが行われました。子供たちにも先生方にも喜ばれる形での支援が現在に続き、他校にも広がっています。

柏原中でも学校支援が再開

柏原中学校コーディネータ 高嶋 英夫

柏原中学校では茶レンジスクールの前身である寺子屋がボランティア有志により継続されました。でも、コロナ禍でSSVCの学校支援は全て休止していました。新年度に入って新たに稲葉正校長先生が就任され、「あしあとプロジェクト」の支援が依頼されました。同校では2年前の休校中、「あしあとプロジェクト」という取組を始めました。これは、“自分自身の成長につながる何らかの足跡を残す”学習を一日1ページで進める取組で、学校から渡されたノートを使って、教科の学習に限らず、自由に話題を取り上げた生徒もいたと聞いています。

校長先生からの依頼は、SSVCの支援者が「あしあとノート」を確認して一言で励ましの言葉を書くことで

す。月～金の午前9時から11時頃まで、日々3名態勢で12名の支援者によるローテーションです。子ども達の頑張りでも支援者も励まされます。

コロナ禍で子ども達と対面した支援はまだ難しいところもありますが、学校と話し合いで支援の依頼が広がればと願っています。



2021年度支援実績

情報集約グループ 角田 ふで子

コロナ禍2年目は、子どもたちと顔を合わせない支援、家庭学習ノートの確認や小テストの丸付けなどを受け入れてもらえる学校が増え、昨年度よりも支援時間は増加しました。支援者の実人数は、コロナ禍前は300名前後の方々に支援してもらっていましたが、2021年度は88名でした。しかし、支援者は、学習ノートを通して、子どもたちが一生懸命学習している様子を見ることができ、それに対してどのような励ましをすればいいのか考えながら、支援をしてきました。

2022年度は、家庭学習ノートの確認支援を要望される学校がさらに増えてきました。また、1学期は、小学校家庭科の支援要請があり、久しぶりに子どもたちとやり取りしながら、楽しく支援をすることができました。

	1学期	夏休み	2学期	3学期	合計
2020年度	6時間	-	723時間	538時間	1267時間
	小学校1校		小学校2校 中学校1校	小学校3校 中学校1校	小学校3校 中学校1校
2021年度	1239時間	70時間	1231時間	592時間	3132時間
	小学校3校 中学校3校	小学校1校 中学校1校	小学校5校 中学校3校	小学校2校 中学校3校	小学校6校 中学校4校

さやまっ子の学習支援員養成講座報告

講座リーダー 石井 宏晶

本年度も、さやまっ子の学習支援員養成講座が6月6日からスタートしました。月曜日の13:30～15:30。教科別の紹介で「国語」を「理科」に変更しました。

- 6/6 始業式、オリエンテーション、自己紹介
- 6/13 さやまっ子の教育方針、教育関連法規
- 7/4 狭山市GIGAスクール構想の実現に向けて
- 7/11 子供の心理と支援の在り方
- 8/1 小・中学校で学ぶ理科の学習内容

- 8/8 理科の学習支援経験から
- 9/5 小学校の算数・中学校で学ぶ数学の学習
- 9/12 算数・数学の学習支援から
- 10/3 小・中学校で学ぶ英語の学習内容
- 10/24 英語の学習支援経験から
- 11/7 SSVCについて
- 11/14 学習成果の発表会、修了式

編集後記：「共に学ぶ」のバックナンバーは右のQRコードで見ることができます。バックナンバーをみると、第1号は平成19年となっております。15年前です。その間、学びも変わりつつあります。「何を学ぶか」から「何ができるようになるか」と変わってきております。私達も「共に学ぶ」から「共に考える」が必要になってきているかと思います。学習支援もコロナ禍で、対面から採点などの後方支援と変化しております。このことで、先生がたの時間を作ることも学習支援と考えています。

(Y.K)

